

## 2021年FIA-F4選手権シリーズ第5大会 参戦報告書

HFDP 阿部 正和

2021年FIA-F4選手権シリーズ

HFDP参加選手レポート

第5大会（第11戦／第12戦） 参戦レポート

11月6日（土）～7日（日）、ツインリンクもてぎ（栃木県）で2021年FIA-F4選手権シリーズ第5大会（第11戦、第12戦）が開催されました。HFDP(Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5小出峻（HFDP/SRS/コチラレーシング。1999年10月26日生まれ。22歳）、#6木村偉織（HFDP/SRS/コチラレーシング。1999年6月22日。22歳）、#7太田格之進（HFDP/SRS/コチラレーシング。1999年6月18日生まれ。22歳）の3人が参戦しました。

**木村優勝、太田2戦連続表彰台**
**■公式予選（30分間）：天候/晴れ 路面/ドライ**


木曜の特別スポーツ走行、金曜のトレーニング走行を経て、土曜の午前8時40分から30分間の公式予選が行われました。秋も深まって気温、路温が低下する中、HFDPの3選手は真っ先にコースインし慎重にタイヤをウォームアップしてタイムアタックに備えましたが、本格的にタイムアタックが始まろうとしたタイミングでコースアウトした車両を回収するためセッションは赤旗で中断。この段階では#6 木村が4番手、#7 太田が10番手、#5 小出は19番手となっていました。

車両回収が終わった午前8時57分、残り13分でセッションが再開。タイヤをウォームアップし直した選手たちはタイムアタックを再開しましたが、最終的に#6 木村は2番手、#7太田は5番手、#5 小出は15番手で終わり、第11戦のスターティンググリッドが決まりました。また第12戦のスターティンググリッドはタイムアタックのセカンドタイム順で決まる規則なので、スターティンググリッドは#7 太田が3番手、#6 木村が4番手、#5 小出が15番手となりました。


**第11戦公式予選結果**

予選2位	#6木村 偉織	1分57秒524
予選5位	#7太田 格之進	1分57秒667
予選15位	#5小出 峻	1分58秒364

**第12戦公式予選結果（タイムアタックのセカンドタイム順に決定）**

予選3位	#7太田 格之進	1分57秒720
予選4位	#6木村 偉織	1分57秒751
予選15位	#5小出 峻	1分58秒682

■第11戦決勝レース（12周）：天候/晴れ 路面/ドライ



秋の太陽が降り注ぐ快晴の空の下、やや気温が上昇した午後1時20分、13週の第11戦決勝のフォーメーションラップがスタートしましたが、出走34台中1台が走り出せなかったためスタートディレイを経てレースは12周に減算されてスタートがやり直しとなりました。

午後1時30分、改めて決勝レースがスタートすると、2番手スタートの#6 木村はやや出遅れ、後方から35号車に並びかかれましたが、3コーナーから4コーナーにかけてインを取って競り勝ち、2番手を守りました。その後#6 木村はトップの36号車を追いました。すると4周目、コース上の停止車両を排除するためセーフティーカー（SC）が介入、パレードラップを経て5周を終了した段階でレースが再開されました。SCラン中に前方との間隔を詰めた#6 木村は猛然と36号車に攻め寄り、ダウンヒルから90度コーナーにかけてイン側に並ぶとそのままオーバーテイクして先頭に躍り出ました。



一方、4番手に付けていた#7 太田もペースを上げて前走車に攻め寄り、デッドヒートの末、8周目にオーバーテイクして3番手へ順位を上げました。トップに立った#6 木村は安定したペースでポジションを守り、後方から追いつがる36号車を突き放して優勝のチェッカーフラッグを受けました。3位には後方から攻めてきた35号車を押さえきった#7 太田が入賞しました。15番手スタートの#5 小出は10番手まで順位を上げていましたが9周目、後方から追突されコース外へ押し出され、一旦コースに復帰はしたものの、そのままレースを終えてリタイアしました。

【FIA-F4選手権シリーズ第11戦・レース結果】

#6木村 偉織	決勝1位（24分54秒704	ベストタイム	1分58秒042）
#7太田 格之進	決勝3位（25分01秒348	ベストタイム	1分58秒606）
#5小出 峻	決勝リタイア（9周）		

■第12戦決勝レース（13周）：天候/晴れ 路面/ドライ



翌11月7日（日）も快晴となりました。まだ気温、路温とも上がりきっていない午前8時59分、第12戦のスタートが切られました。4番手グリッドからうまく加速した#6 木村は3番手スタートの#7 太田をかわして3番手に上がり、さらにうまくスピードに乗って3コーナーから4コーナーにかけて前走の36号車をオーバーテイクして2番手に進出しました。

勢いに乗った#6 木村はトップを走る35号車の背後につき、130Rに向けてインに飛び込もうとしましたが35号車も抜かれまいとインを閉め、2車は接触し絡み合っただけでコースオフしてしまいました。この間に#7 太田がトップに立ちましたが、V字コーナーで36号車がインに入って前に出て、#7 太田は2番手となりました。しかしダウンヒル下の90度コーナーでトップを狙ってブレーキングしたところ止まりきれず、逆に後続車のオーバーテイクを許し3番手へ後退することとなりました。



2周目、#7 太田は再びダウンヒル下でオーバーテイクを狙い、今度はうまくインに入って2番手へ浮上しました。この段階でトップの36号車との間隔は2秒強あり、#7太田は追走を始めますがなかなかその間隔は縮まりませんでした。一方、コースオフ後、コースに復帰して最後尾から追い上げを始めた#6 木村は、前日のアクシデントの影響でタイヤを交換し競技規則によりスターティンググリッドがほぼ最後尾の33番手まで降格となった#5 小出とともにオーバーテイクを重ね、周回毎に順位を上げていきました。



結局#7 太田は2位で13周を走りきりチェッカーフラッグを受けました。#5 小出は8位、#6 木村は9位でレースを終え、HFD Pの3選手は全員でシリーズポイントを獲得してレースを終えました。このレースの結果、#6木村はシリーズポイントランキングでトップと16点差の3番手へ後退、#7 太田はトップと22点差の4番手、#5 小出はトップと78点差の6番手となり、シリーズ最終大会（第13戦、第14戦）を迎えることとなりました。

【FIA-F4選手権シリーズ第12戦・レース結果】

#7太田 格之進	決勝2位	(25分50秒612)	ベストタイム	1分58秒140)
#5小出 峻	決勝8位	(26分5秒109)	ベストタイム	1分58秒526)
#6木村 偉織	決勝9位	(26分6秒021)	ベストタイム	1分58秒439)



■2021FIA-F4選手権シリーズポイントドライバーランキング（2021シーズン第12戦終了時点）

3番手 #6木村 偉織 164点

4番手 #7太田 格之進 138点

6番手 #5小出 峻 112点

（1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点）

■2021FIA-F4選手権シリーズポイントチームランキング（2021シーズン第12戦終了時点）

2番手 HFDP 233点

（各チーム最上位のみ計上）

●ドライバーズコメント：#5 HFDP/SRS/コチラレーシング 小出峻



今回は厳しいレースになりました。予選からスピードが足りませんでした。第11戦では、なんとか少しずつ順位を上げているとき途中で追突されてしまいましたが、これは正直そこを走っていた自分が悪いと思っています。スピードが足りない原因は、今週持ち込んだマシンの動きを自分でコン

トロールしきれしていないことにあります。練習では悪くなかったんですが、予選になって気温も変わってコンディションが変わってしまったことが関係しているかもしれません。でも周囲は特に影響を受けずにむしろタイムを上げているのに、ぼくは逆に下がってしまったんです。



コンディションに敏感にクルマが変わってしまった感じがしますが、それをアジャストしきれませんでした。第12戦では、第11戦のクラッシュでタイヤが3本ダメになって、タイヤ交換をしたため、ほぼ最後尾からのスタートになってしまいました。昨日からペースが上がらなかったのを改善しようとセッティングも変えて自分の走りも見直して走り、第11戦ほど状況は悪くなくなりました。とりあえず少しでも前にと想着結果的に8番になれたので、レース内容としては自分としては納得できる内容でした。コンディションによってクルマが敏感に反応してしまうとき、それをセットで対応するのかドライビングで対応するのか、そこがひとつの課題として残りました。最後の2戦、気負うことなく結果を出していこうと思っています。

●ドライバーズコメント：#6 HFDP/SRS/コチラレーシング 木村偉織



予選を走ってみるとバランスが今ひとつの状況でした。それでもトップタイムをマークできる速さはあったと思いますが、最後のアタックで引っかかってポールポジションを逃してしまうことになり残念です。そこでちゃんとアタックができていればダブルポールだったと思うと、非常に悔しい

予選でした。第11戦ではペースが悪くて守るので精一杯という感じでレースを始めましたが、きっとSCが出るだろうと思っていて、その段階で少しでも前のポジションにいた方が得なので必死でブロックしました。SCスタートでまた争いが激しくなるからそれに備えていて、決してうまく再スタートできたわけではありませんが、うまく追いついて前に出て優勝できました。第12戦は4番グリッドからなので厳しい戦いになると思っていたのですが、スタートが決まり、その後の位置取りもうまく行ってトップが狙えると思いました。ただ、接触してしまったことについては、向こうは向こうで必死だったのはわかるんですが、こちらもあそこで引くわけにはいきませんでした。結果としてあそこでは引いて後で抜けば良かったじゃないかと思う自分もいますけれど、あそこは引かなくて正解だったと思う自分もいます。その後コースに戻れたので、なんとか1ポイントだけでも持って帰ろうと思ってレースをして結果として9番手でフィニッシュできたのは、やりきれたなと納得もしています。最終大会に向けては良い流れにできたんじゃないかと思います。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP/SRS/コチラレーシング 太田格之進



予選は、これでいけるかなと思っていたセッティングが、走り始めたらちょっとバランスがとれておらず、思い通りの感触になるまで時間がかかってしまいました。それでも最後のラップ、余裕でポールが獲れるなど走っていたら前のクルマに引っかかる感じになってしまい、4番手に終わりました。第11戦の展開としてはすごく良かったと思います。スタートで少し

失敗して後ろに追いやられてしまったのは反省点なんですけど、ペースは良かったのでSCが入ってくれたら嬉しいなと思っていました。そうしたら入ってくれたので、このチャンスをしっかり逃さずに結果を残そうとレースをしました。いつかは相手がラインを崩すと思ってしっかり狙っていたらチャンスが来たのでそこに飛び込みました。第12戦は、第11戦と違ってペースが悪くなかったのですが、これはいけるかなと思っていたのですが、スタートで前に阻まれてストレートでトップ争いから離れてしまい、追いつけませんでした。スターティンググリッドからはポジションを上げてゴールすることはできましたが、2位にはもう飽きたし、決して満足できる結果ではありません。最後の富士大会もTGR-DC勢が速いと思うので厳しいレースになりそうですが、優勝目指して頑張ります。

